

国際交流基金助成事業報告書

薬学研究科 薬学専攻
博士課程 1 年次生
藤森 美季

1. はじめに

この度、国際交流助成金の援助を受け、オランダ・アムステルダムにおいて開催された 1st Food Chemistry Conference に参加し、自身の研究成果を発表したので、これを報告する。

2. 学会について

1st Food Chemistry Conference は、世界有数の国際食品化学化学誌 Food Chemistry の 40 周年を記念して開催された新しい学会で、学術、研究職、産業界の専門家や若手研究者が集まり、最新の食品化学分野の品質、安全性、健康面での課題について議論を行う。

3. 学会の様子

3.1 発表内容

発表は口頭発表とポスター発表があり、口頭発表は写真 2 のようなホールで行われた。食品分野の学会であるので、自身の分野(薬学・製剤)に近い発表を中心に聴講した。英語での発表であるのでついていけるか心配していたが、映し出されるスライドを見ることである程度は理解することはできた。しかし、質疑応答はそうはいかず自分の英語力がもっと高ければと思うことが多かった。ポスター発表は昼食も兼ねており写真 3 のようなホールで行われた。昼食は立食で、自由にディスカッションや談笑しながら食べることができるスタイルであった。自身のポス



写真 1. 会場のホテル

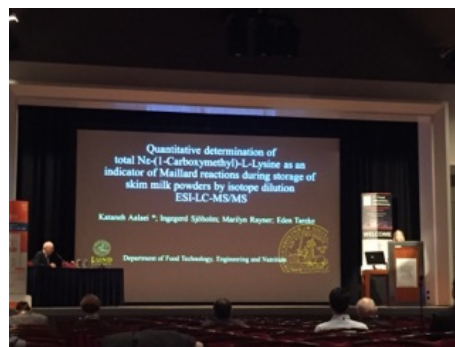


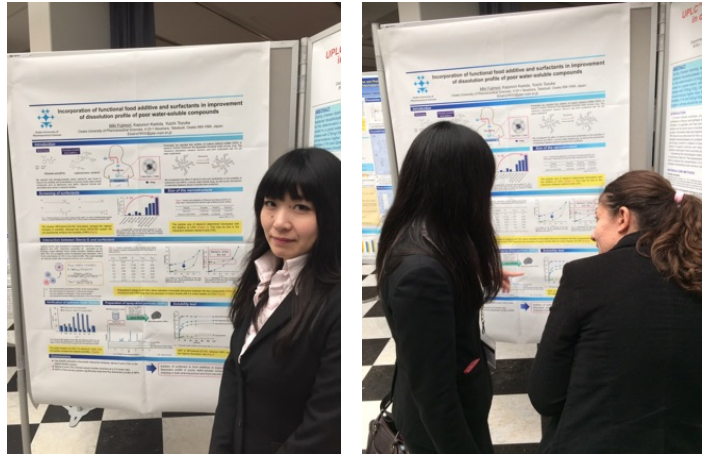
写真 2. 口頭発表会場



写真 3. ポスター発表・昼食会場

写真 4.5 ポスター発表風景

ターは写真 4.5 のように掲示しており、数人ではあるが、質問もしていただけた。アジア人だけでなく、フランスやスペインの方も話しかけてくださり、楽しく過ごすことができ、不完全なつたない英語でも会話することはできるのだとわかり、良い経験になった。また話しかけてくださったほとんどの方が親日的であり、とてもフレンドリーであった。しかし、国内学会で日本語で話すようにはいかず、自身の英語でのコミュニケーション力の向上が大きな課題であると感じた。



3.2 懇親会

アムステルダム内でのクルージングの後、懇親会会場に移動し食事をした。(写真 6)。また懇親会の日がハロウィンだったことから各テーブルに色とりどりのアイマスクが用意されており、周りの参加者との話すきっかけになった(写真 7)。Food Chemistry Conference の参加者は女性が多く、明るく華やかな雰囲気でもここでも周りの方々は非常にフレンドリーで楽しかった。流暢とは言い難い英語でも会話することはできたが、言いたいことが言えない場面も多く、帰国後の学習のモチベーションが高まった。



写真 6.7 懇親会会場とテーブル

4. オランダについて

オランダの首都アムステルダムは水の都で古くから港街として栄え、17 世紀の歴史的な街並と気さくでリラックスした雰囲気がミックスした自由な雰囲気であ



写真 8 オランダの風景

ると事前に聞いており、非常に楽しみにしていた。実際の街の景観を写真 8 に示す。観光が盛んで、様々な国の人々が集まっていた。日本人を含めたアジア人はほとんどおらず、食事はジャンクフードが主流で、オランダ料理はイモ類が多かった(写真 9.10)。



写真 9.10 オランダでの食事

5. 最後に

今回、国際交流基金助成事業の助成金により、1st Food Chemistry Conference に参加させていただくことで、自身の研究に関する知識を深めるとともに、国際学会で発表するという貴重な経験を得ることができた。

最後に、このような機会を与えて下さった、戸塚裕一教授およびご支援いただいた多くの方々に、心からの感謝を表し、報告とさせていただきます。